



発寒だより

かしこい子
やさしい子
たくましい子

令和6年(2024年)8月26日(月) No. 7



子どもたちのウェルビーイングを実現するために

校長 関 敏明

「VUCA の時代」と呼ばれる今日の社会は、変動性、不確実性、複雑性、曖昧性が急速に進展し、未来が予測困難な状況で、私たちは直面する様々な課題を解決していく必要があります。このような不確実で予測困難な未来に向けて、子どもたちは将来の社会を担う準備をしています。未来を担う子どもたちが、未知の環境下でも、ウェルビーイング(Well-being)を実現し、自分の力で歩みを進めていける力を育成することが、今、教育現場で求められている課題です。私は子どもたちのウェルビーイングの姿を「社会と関わりながら自己実現する姿」と考えています。また、自分の夢や目標を実現するために、学習を支える3つの力が重要であると考えています。

1. 「非認知能力」

「非認知能力」には、「自分に関する力」と「人と関わる力」、大きく2つの力があります。自己有用感、自己肯定感、自尊心、自信といった頑張る力と自立心、自制心、自律といった感情をコントロールする力などの「自分に関する力」。この力は子どもたちが経験することによって、自らが感じ、考え、行動することによって育まれます。また、他者への思いやり、協調性、社交性、共感力などの社会性とルール・マナー・モラルという道徳性などの「人と関わる力」。この力は、他者の心を感じ、考えを理解し、行動を共にすることにより育まれます。学校教育で育成する言語や計算力などの「認知能力」は、幼児期に築かれる「こころの土台」に重ねることから、しっかりとした礎を造っていれば、上手に積み上げることが可能です。

2. 「自らの学習を調整する力」

平成29年改訂の学習指導要領の目標及び内容は、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の資質・能力の3つの柱で再整理されましたが、これを支える力としてメタ学習があります。自らの学習を振り返り、これからの目標を定め、自分の取り組むべき学習を調整していく力です。メタ学習によって、学びの目標と、教師や親の足しがなくともフィードバック・ループを生み出すことで、生涯にわたって自律的に学ぶ力を育成させます。

3. 「意欲(モチベーション)」

学びに向かう意欲です。自己決定的な行動を生み出すためには、3つの条件があります。一つ目は、自律性。学習者が主体的に学習に取り組むことです。二つ目は、有能感。自分がその学習をやり遂げる力があるということです。三つ目は、関係性。その学習が行われる場面にいる教師や友達とよい関係を築いていることです。これらの条件が揃えば、子どもたちが自分の行動を自ら決める機会が増え、徐々に内発的動機付けが高まっていきます。

これからの子どもたちの学習には、学習に対して子どもたちが自己決定する場面があること、そして、自らの学習を振り返り、自己調整していくことができることが必要です。子どもたちの未来の可能性を信じ、「自立」と「自律」を育む取組が、学校教育や家庭教育においても求められます。私たち大人は、子どもたちが自分の夢や目標に向かっていくために、子どもたちが答えを出すのをじっくりと待ち、そして、ずっと見守り続ける存在でありたいと思います。